

# ふじみ野市公共施設白書を公表しました

高度経済成長と首都圏への人口集中を背景に、本市では、昭和30年代から拡大する行政需要に合わせて小中学校などを中心に公共施設の整備を進め、その後も社会環境の変化、市民ニーズの多様化などに応える形で多くの公共施設整備を行ってきました。現在、これらの公共施設の多くは、建築後30年以上が経過し、施設の老朽化が顕著に進行しており、今後集中して必要となる施設の建替えや改修、維持などにかかる多額の費用確保が問題となっています。さらに、合併により誕生した本市は、旧上福岡市と旧大井町がそれぞれ単独のまちづくりにより整備された多数の同規模・類似公共施設が複数存在しています。

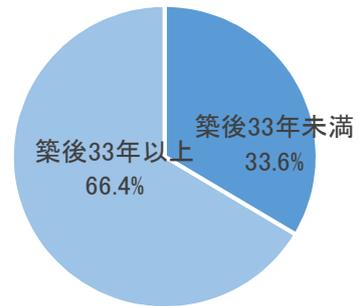
そこで、市が保有し管理運営している公共施設について、その機能や利用状況、コスト分析をすることにより、実態を把握するとともに、公共施設のあり方について考える1つの資料とするため本公共施設白書を作成しました。

## ■約7割の公共施設が老朽化(平成26年4月時点)

市が保有する公共施設は、築後33年以上経過した施設が約7割を占めています。

耐震化が必要な昭和56年以前の公共施設のうち、耐震化実施済と耐震診断により耐震化不要を合わせると82.8%になります。

## 公共施設の経過年数



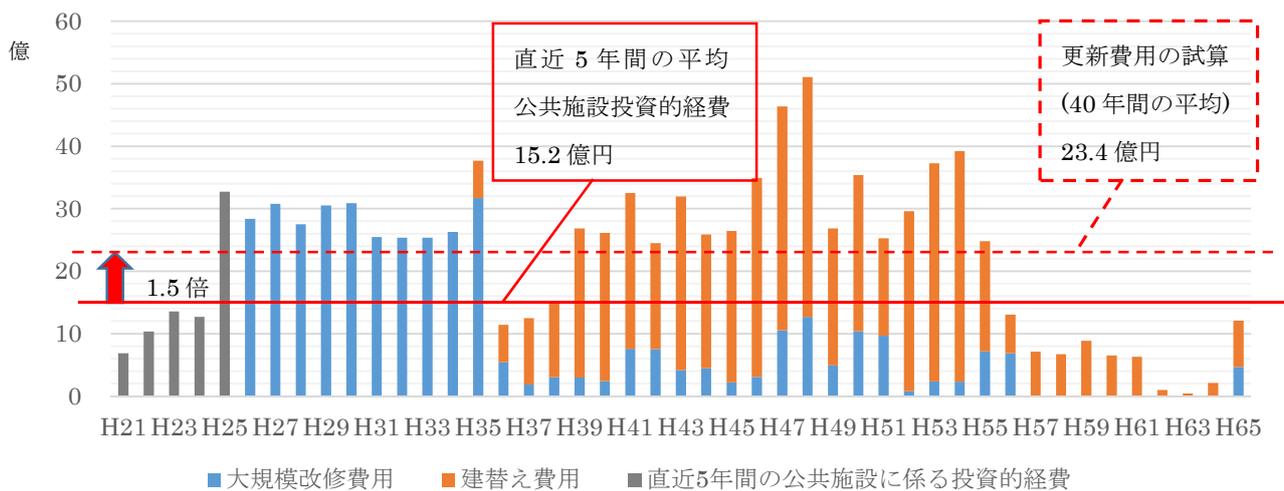
※築後33年未満の施設は、耐震補強の必要はありません

## ■1年あたり23.4億円の経費

すべての公共施設を維持するには、今後40年間で、936.1億円程度、1年あたりでは平均23.4億円の経費が必要と試算されます。

## 将来の公共施設更新費用の推計(40年間)

### 将来の更新費用の推計 (40年間・公共施設)



【試算条件】現在保有する公共施設を同じ延べ床面積で施設を更新すると仮定し、今後40年間にかかるコストを総務省が公表している試算ソフトにより算出。更新年数は建設時から30年後に大規模改修を行い、60年後に建替える。建設時より31年以上の施設は、今後10年間で均等に大規模改修を行うと仮定。建替え、大規模改修時の単価設定は総務省が設定したものを採用。毎年行う老朽箇所の修繕は含まない。

ふじみ野市公共施設白書は、市役所本庁舎、大井総合支所、出張所、各公民館、各図書館で閲覧することができるほか、市のホームページからもダウンロードが可能です。

問い合わせ

総合政策部 改革推進室 計画・評価係  
電話：049-262-9051 FAX:049-266-6245

■ マンガでわかる！ 公共施設の問題とは！？

① 最近、公共施設の問題が

ニューズになってるなあ

ホントあつ!!

危ないから  
建て替え 改修  
すれば良いのにな

安全だし!  
キレイになるし

さらに!

改修には多額の費用が必要!  
だが働き盛りの人たちが減るため  
税収が減る。

高齢化で福祉に関する支出増!!  
合併による財政的優遇措置も  
平成33年度には0になるんだ!!

借金  
財政破綻

支金が不足

② 確かに!!

一石二鳥

ちよっ  
待ったあ!!

この問題は  
日本全体の  
大きな問題なんだぞ!!

いや待って下さい!!  
どれなら  
施設を減らすのは!!

なるほど!!

どの施設をなくすんだ?

近くは...  
近くの施設はあたらしく  
良いからなあ!!

身近な施設には  
愛着もひとしおだからなあ

ただ  
今のままでいいはずがない

③ 問題??

確かに  
図書館とかそれぞれあるわ

④ 高度経済成長期に、  
小中学校を中心に多くの  
公共施設が建設されたんだ。  
それぞれが一斉に建て替える時期を  
迎えている!!

合併市と同じような施設が  
あることも課題なんだ。

⑤ 施設数を減らすのではなく  
学校に他の施設を統合する事で  
効率的に  
運営ができるかもしれない!!

こういった可能性をふじみ野市全体で  
考えていく事が大切なんだ!

⑥ 身近な施設には  
愛着もひとしおだからなあ

⑦